

作成番号:0264

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-264

内容:家庭での上腕カフ式血圧自己測定は正確か？

出典:Self-measurement of blood pressure at home using a cuff device for change in blood pressure levels: systematic review and meta-analysis.

Hypertension research : official journal of the Japanese Society of Hypertension. 2024 Nov 21; doi: 10.1038/s41440-024-01981-4.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39572787/>

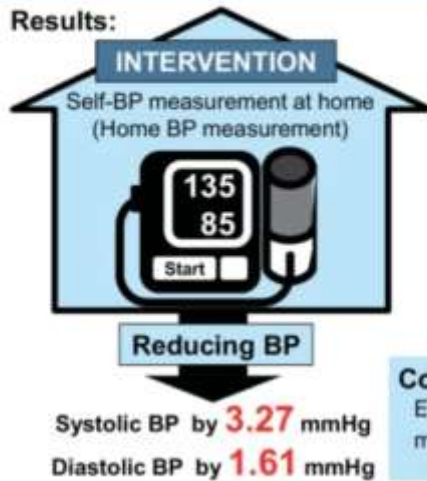
家庭血圧測定に関する国内ガイドラインでは診察室血圧より家庭血圧を重視することが推奨され、海外のガイドラインもそのように変化してきている。上腕カフ式血圧計での家庭血圧測定に関して、東北医科薬科大学の研究者らが行ったシステマティックレビューとメタ解析の結果が「Hypertension Research」11月21日号に掲載された。上腕カフ式の血圧計で家庭血圧測定を行っている場合に、血圧値がより厳格に管理されることが確認された。

検索条件は、家庭血圧測定の有用性を対照群(家庭血圧測定を行わない群)と比較したランダム化比較試験であり、2000年以降に英語または日本語で報告された論文で、65件の報告を抽出した。抽出された研究の参加者数は合計21,053人で、65件のうち63件は高血圧患者を対象としていた。メタ解析の結果、家庭血圧測定により血圧がより厳格に管理されることが明らかになった。具体的には、収縮期血圧(SBP)は -3.27mmHg (95%信頼区間 $-4.15\sim-2.40$)となり、拡張期血圧(DBP)は -1.61mmHg (同 $-2.07\sim-1.14$)に管理されていた(いずれも $P<0.001$)。一方、手首にカフを巻いて測定するタイプの血圧計を用いた4件の研究のみを対象とするメタ解析では、SBPに対する有意な影響が認められなかった。

上腕にカフを巻く血圧計による家庭内での血圧自己測定は、高血圧の治療に有益なツールであり、特に遠隔医療や医療従事者のサポートなどの追加介入を行った場合に、より厳格な管理につながる。

Self-measurement of blood pressure at home using a cuff device for change in blood pressure levels: systematic review and meta-analysis

Results:



Objective: To determine whether home BP measurement (HBPM) reduces BP.

Study design: Meta-analysis

Participants: Adults

Intervention: HBPM

Comparator: Usual Care

Outcome: BP change

RCTs finally included: 65 studies



Conclusion: HBPM is beneficial in reducing BP

Especially in conjunction with telemonitoring or additional medical support and when employing upper-arm cuff devices.